

『問答語』の漢語語彙(4)

竹越 孝

(承前)

8. 副詞

8.1 程度

8.1.1 強度

“太”

“太”は1例用いられており, “太～了”の形を取る。

満洲語では副詞 *jaci* (甚だ, 頗る) が対応する。

- (1) 你太仔細了 (12a5) 〈*jaci*〉

“狠”

“狠”は10例用いられており, うち9例が副詞としての用法, 1例が動詞に後続して補語となる用法である。

満洲語では, 補語となった場合に副詞 *mujakū* (実に, 極めて) が対応する以外は, すべて副詞 *umesi* (甚だ, 頗る) が対応する。

- (1) 狠熱 (4b4) 〈*umesi*〉
(2) 師傅誇狠了 (7a3) 〈*mujakū*〉
(3) 狠合指頭 (17a3) 〈*umesi*〉
(4) 狠利害 (20a2) 〈*umesi*〉

8.2 時間

8.2.1 過去

“從來”

“從來”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *asuru* (あまり, ほとんど) が対応しているように見えるが, “從來”の意味とはずれがある。

- (1) 從來不會托落 (17a3) 〈*asuru*〉

“纔”

“纔”は9例用いられている。

満洲語ではすべての例で副詞 **teni** (さっき, やっと) が対応する。

- (1) 纔三里 (4b3) 〈teni〉
- (2) 纔是 (5a4) 〈teni〉
- (3) 纔來的麼 (6b6) 〈teni〉
- (4) 纔可以射得 (18a4) 〈teni〉

8.2.2 現在

“現在”

“現在”は1例用いられているが、存在していることの強調ではなく、今、現在の意味と思われる。

満洲語では名詞 **ne** (今, 現在) が対応する。

- (1) 現在看不得 (15b2) 〈ne〉

8.2.3 不定時

“常”

“常”は2例用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 **kemuni** (常に, なお) が対応する。

- (1) 常聽見 (10b6) 〈kemuni〉
- (2) 常思己過 (14b1) 〈kemuni〉

“暫且”

“暫且”は1例用いられている。

満洲語では副詞 **taka** (しばらく, 暫時) が対応する。

- (1) 暫且等一等 (13a6) 〈taka〉

8.2.4 不変

“還”

“還”は6例用いられており、うち“没”が後続する“還沒”の形が4例である。

満洲語では、“還沒”の4例がいずれも未来連体形 **-ra/re/ro** に後続する後置詞 **unde** (まだ～しない, ～するのはまだだ) に対応するほか、副詞 **kemuni** (まだ, なお) に対応するものが3例ある。

- (1) 還早呢 (4a1) 〈kemuni〉
- (2) 還沒呢 (4a3) 〈unde〉

- (3) 時候還沒到 (11b4) 〈isinara unde〉
- (4) 還沒傳呢 (18a1) 〈kemuni selgiyere unde〉

上の (4) は両者が重なっていると見るべきである。

8.2.5 重複

“又”

“又” は 3 例用いられている。

満洲語では、副詞 geli (また, なお) に対応するものが 2 例, 動詞 bi (ある, いる) の不定形 bime (～であって, ～でいて) に対応するものが 1 例ある。

- (1) 又不曾寫 (3a5) 〈geli〉
- (2) 又甜 (11b2) 〈jancuhūn bime〉

“再”

“再” は 1 例用いられている。

満洲語では副詞 jai (再び, また) が対応する。

- (1) 再來罷 (3b6) 〈jai〉

8.3 範囲

8.3.1 単独

“只”

“只” は 1 例用いられている。“只” に動詞の“有” が後続する形であり, “只有” で一語ではない。

特に副詞としての“只” に対応する満洲語は見られない。

- (1) 只有這個能耐麼 (8a4) 〈hūman ereo〉

上の例は「(お前の) 腕前はこれか」の意味になる。

“只是”

“只是” は 5 例用いられている。

満洲語では、副詞 emdubei (ひたすら, ただ) に対応するものが 4 例, damu (ただ, わずかに) に対応するものが 1 例である。

- (1) 只是打閃 (12b3) 〈emdubei〉
- (2) 只是代累人 (14a1) 〈emdubei〉
- (3) 咱們只是 (14b3) 〈damu〉

上の (3) は副詞“只” に動詞“是” が後続した形と見ることもできる。

8.3.2 相互

“相”

“相”は1例用いられている。

特に副詞としての“相”に対応する満洲語は見られない。

- (1) 管我們什麼相干 (3b3) 〈ai dalji〉

上の例は「何の関わり（があるか）」の意である。

8.3.3 統括

“都”

“都”は4例用いられており、うち“是”が後続する形が2例である。

満洲語はいずれも副詞 *gemu*（みな、すべて）に対応する。

- (1) 都像你麼 (3a2) 〈*gemu*〉
(2) 都是好心 (3a6) 〈*gemu*〉
(3) 都去了 (4a2) 〈*gemu*〉

“也”

“也”は11例用いられている。

満洲語では *inu*（また、～も）に対応するものが7例、*geli*（また、その上）に対応するものが2例あるほか、明確な対応語彙がないものも2例ある。

- (1) 書也不會 (3a3) 〈*inu*〉
(2) 一個人也沒有 (4a5) 〈*inu*〉
(3) 也好罷咧 (10a3) 〈*inu*〉
(4) 賴怠臭也有呢 (16a4) 〈*geli*〉
(5) 不學也使得麼 (21b6) 〈*geli*〉
(6) 買也買不着 (6b5) 〈*udaci baharakū*〉
(7) 鐵也銹了 (9a2) 〈*sele sebdenhebi*〉

上の(6)は「買うことができない」、(7)は「鉄がさびついている」の意味になる。

“總”

“總”は1例用いられているが、“總而言之”の固定フレーズである。

満洲語では、疑問詞 *ai* に *ombi*（なる、できる）の逆接形が接尾した *ai ocibe*（何にせよ、いずれにしても）に対応する。

- (1) 總而言之 (16a4) 〈ai ocibe〉

8.4 情態

8.4.1 真確

“必定”

“必定”は2例用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 *urunakū* (必ず, 決まって) が対応する。

- (1) 必定往大堤上去 (19a6) 〈*urunakū*〉

“一定”

“一定”は1例用いられている。

満洲語では *toktombi* (定まる, 定着する) の先行形が副詞化した *toktofi* (定めし, 決まって) が対応する。

- (1) 一定射馬箭 (19a1) 〈*toktofi*〉

“定”

副詞としての“定”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *murtei* (必ず, 決まって) が対応する。

- (1) 定會翻 (18a5) 〈*murtei*〉

8.4.2 趨勢

“自然”

“自然”は1例用いられている。

満洲語では, 三人称代名詞の属格形 *ini* に形容詞 *cisui* (自らの, 独自の) が後続した *ini cisui* (自然に, おのずから) が対応する。

- (1) 自然顯露 (16b5) 〈*ini cisui*〉

8.4.3 相反

“反倒”

“反倒”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *elemangga* (かえって, 反対に) が対応する。

- (1) 反倒耽悞 (13b3) 〈*elemangga*〉

“可”

副詞としての“可”は2例, いずれも“可不是什麼”の形を取る。

満洲語では、形容詞・名詞 inu（その通りだ，是）に助詞 ya（＜Chin. 呀？）が後続するものが 1 例，ohoci が後続するものが 1 例である。後者は，ombi の過去形 oho に奪格語尾が付されたものと分析できるが，その意味するところは未詳。

- (1) 可不是什麼 (2a3) 〈inu ya〉
- (2) 可不是什麼 (21b1) 〈inu ohoci〉

8.4.4 推測

“或是”

“或是”は 4 例用いられている。

満洲語では、副詞 eici（あるいは，それとも）に対応するものが 3 例，ほぼそれと同義と思われる embici に対応するものが 1 例である。

- (1) 或是飽頭 (10a2) 〈eici〉
- (2) 或是 (9b5) 〈embici〉

上の (2) は単独で用いられた場合である。

8.5 否定

8.5.1 古代語

“莫”

禁止を表す“莫”が 1 例用いられている。

満洲語では、後ろに動詞の未来連体形 -ra/re/ro を伴う副詞 ume（～するなかれ，決して～するな）に対応する。

- (1) 莫論他非 (14b2) 〈ume〉

8.5.2 現代語

“不是”

“不是”は 9 例用いられており，うち“不是的”の形が 2 例ある。

満洲語では，いずれも形容詞・名詞 waka（～でない，非）に対応する。

- (1) 不是那樣 (6a5) 〈waka〉
- (2) 你不是我對手 (7b6) 〈waka〉
- (3) 不是頑的 (10a5) 〈waka〉
- (4) 不是的罷咧 (8a6) 〈waka〉
- (5) 不是的 (11a5) 〈waka〉

“没”

“没”は14例用いられており、うち名詞性の成分が後続する“没+N”の形が7例、動詞性の成分が後続する“没+V”の形が7例（“没”が単独で用いられる1例を含む）である。後者のうち4例は“還沒+V”の形を取る。

満洲語では、“没+N”の7例がほぼ否定詞 *akū* に対応する。

- (1) 没事 (1b6) 〈*akū*〉
- (2) 没样兒 (4b6) 〈*akū*〉
- (3) 没臉面 (3a2) 〈*derakū*〉
- (4) 好没禮 (5a6) 〈*dorakū*〉

上の(3)は *dere akū*, (4)は *doro akū* の縮約によって生じた形と見ることができる。

“没+V”7例のうち、“還沒+V”の4例は前述のように動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* に後置詞 *unde* が後続した形に対応する。それ以外の3例は、いずれも動詞過去連体形の否定形式 *-hakū/hekū* に対応する。

- (5) 爲何没見你 (2a2) 〈*sabuhakū*〉
- (6) 一個蹬兒没打 (7a3) 〈*tanjahakū*〉

“没有”

“没有”は5例用いられており、うち2例は動詞が後続する“没有+V”の形を取る。

満洲語では、“没有+V”の2例に動詞過去連体形の否定形式 *-hakū/hekū* が対応し、他の3例は否定詞 *akū* が対応する。

- (1) 没有喝 (1b3) 〈*omihakū*〉
- (2) 一個人也没有 (4a5) 〈*akū*〉
- (3) 没有就是墩子 (10a2) 〈*akūci*〉

“别”

禁止を表す“别”は2例用いられている。

満洲語では、いずれも後ろに動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* を伴う副詞 *ume* が対応する。

- (1) 别等我 (18b5) 〈*ume*〉

“别要”

禁止を表す“别要”は2例用いられている。

満洲語では、いずれも後ろに動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* を伴う副詞 *ume*

が対応する。

(1) 別要哄我 (20b5) 〈ume〉

(待続)